

「ものいふ花よべの雨」

今回の個展はささやかな集大成という意味もあり

自分をさらけだしてる部分が恥ずかしくもあり俎板の鯉というか針の筵に座る感じでいます。

自分の世界（あるならば）のモノクロ写真がデジタルの出力

ではどうも違うと思いはじめ銀塩よりプラチナの遡るような時代感だと思い

去年の暮れから60の手習いで銀遊堂の比田井先生にプラチナプリントを教わり始めました。

6x7のフィルムあるいはデジタルから

デジタルネガを作りプラチナプリントをするという方法でやっています。

仕事ではデジタルの時代になってデータで納品というのがあたりまえになっています。

僕のまわりには画家、書道家、仏師さんがいて

みなさん手を使い手を汚して作品を作ってらっしゃるのを見て

作品を生み出すってなんだろうってあらためて考えさせられました。

おそらく自分の手を使い汚し五感を鋭敏にさせる時間を

持つかどうか作品の出来を左右する気がしています。

写真は手法ではなくいろんな意味で時間なのでしょう。

ひとはそれぞれ様々な表現があり写真は特にアナログやデジタルや

いろんな枝葉に別れていいもわるいもないと考えていますが

大事なのは時間の深さを感じるかどうかだと思っています。

清家正信